1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703022		
法人名	医療法人 権頭クリニック		
事業所名	グループホームもやい (B)		
所在地	福岡県北九州市八幡西区竹末1丁目10-15		
自己評価作成日	平成22年11月22日	評価結果確定日	平成23年1月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階
訪問調査日	平成22年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームもやいは、目の前には道路を隔て公園が広がり、小学校や神社、住宅街、市民センターが近くにあり、地域交流の拠点としては恵まれた環境にあります。「その人らしくあるがために」を理念に掲げ、ご家族様、地域の方々の協力を得ながら、それぞれの生活歴を大切にし入居者様個々の希望を現実化できるよう、個別性を重視した入居者様本意のケアに繋がるように本人様、ご家族様、地域の方々、主治医、職員などがチームとなりケアに日々取り組んでおります。職員は、入居者様、ご家族様に満足なサービス提供を行う為、大学から講師を招き定期的に内部勉強会の開催や積極的に多くの外部研修にも参加し職員全体が知識や人間性、向上心を高め合いながら、質の良いケアを一人ひとりの入居者様にサービス提供を目指し努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしくあるがままに」を理念として市民センターを拠点とし、地域行事等の参加を行っている。又、職員は出勤時事業所の理念を読み互いに共有し地域密着型サービスの実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民センターを拠点とし、地域行事等の参加やホーム行事の招待、地域清掃や近隣の小中学校のボランティア、職場体験の受け入れ等地域の方々とのふれあいや関わり、協力を持つ事で地域の中での暮らしに繋げている	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民センターや地域の方々のご協力のもとちつき大会の開催やホーム行事に地域の方を招待する事で、入居者様と直接関わりを持っていただき、ホームで行っている音楽セラピーについて地域の方に紹介、回覧板や市民センターにてお便りを設置させてもらい認知症の方の理解など繋がるように取り組んでいる	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービス状況の報告やこれからの取り組みについてのお願いや相談をしたり、市民センターや自治区会の行事のお誘いなどが有り良い関係を構築する為サービスの質の向上に取り組んでいる	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも民生委員や町内会長、自治区会の方に行事での協力依頼やボランティアの相談、広報誌を地域の回覧板や市民センターでの設置の件などを協力していただきサービスの質の向上に繋げている	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体が身体拘束は、絶対にあってはならない事を自覚し内部勉強会の開催や身体拘束廃止の外部研修にも必ず参加し身体拘束についての知識や理解、意識を高めている。玄関の鍵は掛けているが内部から入居者自身が開ける事ができ自由に外に出られるようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体が高齢者虐待は絶対にあってはならない事を自覚し内部勉強会の開催や高齢者虐待防止の外部研修にも必ず参加し又、定期的にミーティング時に高齢者虐待防止について職員で考える機会をつくり防止に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について職員やご家族に分かりやすく理解できるように大学の講師を招き内部勉強会を開催している。又、外部の研修にも必ず参加しそれぞれの職員が制度について理解、知識を身に付けれるように努力している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は生活相談員、管理者が同席し契約する前に重要事項を説明ししっかり理解していただくよう努めている。理解しにくい部分は、その分りやすいようにその都度説明している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見、要望、苦情をまず窓口として管理者や職員が傾聴し、その内容を相談窓口の施設長に報告し直接面談にて対応する事もある。ご家族の意見は、運営推進会議にも報告し、運営に反映している。		
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は、随時管理者から運営者に報告されるとともに定期的な全体会議の中で情報交換をし、必要に応じて運営に反映している。又、職員個々の意見も運営に反映できるように施設長又は管理者と定期的に面談を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的に一人ひとりの職員と面談やアンケートを行い、それぞれの職員の想いや悩み、希望を把握し個々にあった職場環境・条件の設備に努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の性別、年齢に関係なく採用している。又、定期的に施設長又は、管理者と面談をし個々の持つ能力を発揮できるよう取り組んでいる。		
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部、外部研修に積極的に参加してもらい、施設長又は、管理者からミーティング時に話をし理解を求めている。		

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験、段階に応じて多くの外部研修にも参加してもらい、内部研修も定期的に行い資格取得のための配慮を行っている。又、事業所負担で働きながら通えるようにホームヘルパー2級資格取得の支援制度を導入している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多くの外部研修会に参加する事により、他の同業者との交流の機会を持つ事ができている。また、同一法人の他のグループホームの運営推進会議への参加を行い、サービスの質の向上の為に取り組みを定期的に行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し事前に本人の不安な事や困っている事などの想いに耳を傾け、安心して暮らせるように入居後も本人の想いをくみあげケアプランに反映できるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み予約時の見学の際からご家族の困っている事、不安な事や要望などの想いに耳を傾け、出来る限り想いを共有させていただき、信頼関係を築けるようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、本人と家族がまず必要としている支援を確認し、事業所の中で可能なサービスを説明し、それ以上のことについては、どこまで可能であるか地域の方や他の資源、サービスも検討しながら探っていくようにしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とともに料理、掃除、裁縫などを行い、又若い職員は入居者様に教えていただける機会や今までの経験をお話して下さる事もあり、職員にとっても大きな学びとなり互いに支えあう暮らしに繋がっている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとっては、職員よりもご家族が一番である事をご家族にも理解いただき、可能であれば面会や行事への参加、また精神的な支えとなっただけのよう願っている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時来園・面会できるようにしており、ご本人に楽しんでいただいている。又、馴染みの方との関係が途切れないように行きたいところがあれば支援している。		

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	コミュニケーションが困難や控えめな方でも職員 が状況に応じて見守りや間に入り対応し互いに 支えあう関係に繋がるよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会った先での声掛けや何か困った時の相談に 来られた時は、相談窓口である施設長が話しを 伺い対応している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	他者との関係も考慮しその人らしくあるがままに 生活できるように本人も参加する担当者会議、職 員との個別的なコミュニケーションの中で本人の 希望や意向を確認しケアプランやミーティング等 で検討している。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	暮らしの情報把握に努めアセスメントでは記載し ていない事も、日々の会話やご家族とのコミュ ニケーションを通して情報を拾いケアへ繋げている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でその方のペースに合わせてき る事を大切に、毎日充実したもの、生きがいと感 じられるように見守り、支援、ケアへ繋げている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	面会時や担当者会議でご家族様のご意向を聞 き、本人の気持ちを大切に、又医療面から主治 医より意見をいただき介護計画の作成に役立 てている。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を記入し、カンファレンスを行い情 報の共有を行っている。又、会議計画に沿った支 援ができるよう努め、日々の情報は次の介護計 画に活かすようにしている。		

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望される方には同一法人のデイサービスを利用していただきホーム外での交流、またリハビリなどの筋力維持のサポート等を行っている。又、希望により体験入所の受け入れも行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事を通しての地域との交流を図ったり、運営推進会議の参加、市民センターでのふれあい昼食会、地域の小中学校との交流、近隣のスーパーなどその方に合わせた地域資源を利用し安全で豊かな暮らしに繋がるよう努めている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明し、ご家族の納得のもと、併設の診療所をかかりつけ医として適切な医療を受け、他科受診の場合などは、ご家族の了承を得て受診している。また、ご希望があれば他の医療機関をかかりつけとすることも選択できる。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が在籍しており日常の状態の把握をしているが、随時介護職員から看護職員に気づきや情報がある場合は報告、相談を行い、医師との連携を取っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時よりご家族の了承のもと、医療機関への連絡により状態の把握に努め、面会に行くことで安心していただいている。又、入院先の医療機関と相談の上、認知が進まないように早期退院をご家族とともに相談し、その為の受け入れ準備も看護師の配置やPTの訪問などできるように整えている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について本人及びご家族に定期的に意思確認を行っている。重度化、終末期の段階においては主治医と連携を密にご家族とも話し合いを行っている。今年もご家族のご希望で看取りの支援を行った。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、急変時の対応など勉強会を行っている。消防署に依頼し、職員や家族とともに普通救命講習を受講してもらい実践力を身に付けている。		

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、地域・家族に参加を呼び掛け訓練を行っている。避難訓練は消防署、防災設備の業者の指導により行っている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライドやプライバシーを損ねないように全職員が、1人ひとりにあった言葉掛けや対応を行い個人情報の取り扱いには十分注意をするよう指導し対応している。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話を傾聴し、職員が声掛けする時には、温かい雰囲気や分かりやすい言葉を使い入居者が自己決定により納得して生活できるように支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事への参加も強制ではなく、1日の流れも決まったものではなくその人の希望やペースに合わせ、入浴や活動をするなどを思い思いに過ごして頂けるようにしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容出来る方はご自分でしていただき、出来ない方も好みを取り入れられるように配慮している。月に一度の理容師が訪問し髪型も自由にされている。ご希望な方は、外部の美容室に行く事もある。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に作ったり、盛り付けや配膳、片付けも入居者と職員と行っている。メニューを立てる際も入居者の好みを取り入れたり、季節行事の食事作りも行っている。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合った食事量や食事形態を提供し、摂取量は毎日記録している。入居者の食事摂取量が少なくなった場合も主治医と相談しながら個々の食事状況に対応をしている。		

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施。又、口腔ケア用品の消毒も実施している。必要に応じて歯科衛生士によるチェックや訪問歯科受診も行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けた排泄を支援できるように、一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくおむつやパッドなどを使用せずに済むように家族にも相談しながら行っている。また、排泄チェック表も作成し24時間記録している。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維質のものを取り入れて予防している。改善策としてその方に応じ飲み物や食べ物を提供している。又、散歩や日光浴、体操など体を動かす機会を作っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じて入浴できるようにしている。入浴時は個別対応となるので、情報収集の場となる事もあり、コミュニケーションに努め楽しく過ごしていただける配慮している。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン交換、室温調節を行い安眠していただけるようにしている。記録などで情報交換を行い、状況に応じて休息したり眠れるよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容・服薬方法など指示や処方箋を確認し周知を行っている。確実に服用できるよ工夫し、症状の変化なども経過を観察、記録をし主治医に報告している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や園芸、買い物や散歩などのその方にあった役割を支援している。又、個別支援として本人の希望により外出の支援を行う事もでき、市民センターや郵便局の文化祭への作品出展にも取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム もやい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>本人の希望や意思を尊重して散歩やドライブ・外食などの外出支援を行っている。</p>		
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お小遣い程度の金額は管理できる方には、ご家族の了承のもと所持していただいている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望や要望があった時は、電話をしたり手紙を出せるように支援している。又、ご家族や友人などからの電話も自由に本人に繋げている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同のスペースには生活の雑音は常に聞こえているが、その音により、今、何が起きているのか入居者の話題の提供になっている。季節感には常に取り入れて話題を提供している。夏は、日よけに窓辺に朝顔を植えたりもしている。</p>		
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者それぞれの過ごし方を考慮したソファの配置、また入居者同士が会話できるようなテーブル配置を工夫している。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内には、ご家族、ご本人の思い出深い家具や好みのもの、写真などを持ち込んでいただき居心地良く過ごしていただけるように心掛けている。</p>		
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行不安定な方を廊下の手すりを使用しホーム内は見守りの下、自力歩行を促している。また居室内の家具の配置、障害になるような物の移動などご本人やご家族と相談している。</p>		